

日刊 勤労千葉

82.4.29

No.1032

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五・六(会務)四三三二七・二〇七

勝浦支部反撃の体制を確立



勝浦支部144名は、吉野君を守りぬいて、総決起するぞ! 不当弾圧を粉碎するぞ!

一四四名総決起で吉野君を守るとぞ、勝浦支部通信員発

支部執行委員・吉野六郎君に不当な出頭命令攻撃がかけられた勝浦支部は、4月23日、支部職場集会を開催し、勤労「本部」巡小川建二の権力へのデツクあげ・タレコミによる不当弾圧を支部一丸となつて粉碎する決意をうち固めた。

今回の攻撃は、権力による労働運動への

不当な介入であり、とりわけオの臨調にあける国鉄分働論をはじめ「悪慣行」是正、職場規律確立という既得権の剝奪等、国鉄労働運動解体攻撃と軌を一にした攻撃に他ならない。

4月23日13時より、73名の組合員が結集して、支部職場集会がかちとられた。

吉野君を守り、敵の攻撃を粉碎しよう

支部長

集会は、中村執行委員の司会で「千葉県警・佐倉署船橋西署は、4月9日と16日に、『本部』巡小川建二に対する監禁強要」なる口実で当支部吉野六郎君をはじめ6名に対し任意出頭攻撃をかけた。この攻撃の本質を見すえ、6名を守りきこて向おう」とのあいさつで始まった。

ついで、窪田支部長が、「事は、2年前のオルグ活動の中での出来事であり、事件」などと言えるものではない。特に県警警備

二課による取り扱いや、任意出頭状が内容証明付で来るという異常なやり方をし

あり、これは明らかに勤労千葉の組織をつぶすための攻撃である。支部全体で吉野六郎君を守りきり、敵の攻撃を断固粉碎しよう」と、経過報告をかねてあいさつし、更に麓山支部よりも支援の申し入れが来ている事が報告された。

断固、完黙非転向で闘う

吉野君が決意表明

続いて、この不当な攻撃に対し、出頭命令拒否を貫き向う。この吉野六郎執行委員が立ち、当日の具体的状況をもまじえて、これが何ら「不法」「監禁」や、ましてや「強要」などに該当させないことを鮮明に報告した。集会参加者は皆、あらためて「本部」草案

23日より、常駐体制へ

最後に、照岡執行委員より「支部執行委員会の方針として、4月23日より役員・活動家を中心とする常駐体制に入る。不当逮捕等の攻撃があった場合は、全力結集し、吉野君および家族への激励闘争をも含め、支部全体で取り組んでいこう。支部執行委員会はその先頭に立つ」との当面する方針と固い決意が述べられた。

「どうしてこれが不法監禁になるというのか。これは明らかにデツクあげであり、単に吉野個人に対する攻撃ではなく、向う勤労千葉に対する組織破壊を目的とした権力

高師青年部長よりの決意表明をうけたのち、窪田支部長の音頭による団結ガンバロウを三唱し、あらゆる事態に備えた万全の意志統一と体制をうち固めた。

権力・本部草案一体のデツクあげ不当弾圧粉碎! 勝浦支部は総決起するぞ! 全支部、二三の仲間、6名を守って一丸となつて総決起しよう!